

1 単元名・題材名

根拠を吟味して書こう  
「地図」の意見文

2 単元の目標

- (1) 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。
- (2) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
- (3) 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。
- (4) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することができる。

3 単元計画(全6時間)

時間	題材名及び目標	主な学習活動	個別最適な学びの手立て
1	〔題材名〕根拠を吟味して書こう ○説得力のある意見文の書き方を学習し、意見文の題材となる問題について検討し、自分の立場を決める。	・意見文の書き方を学習する。 ・参考資料を読む。 ・参考資料のテーマに対する自分の立場と根拠を考えさせる。(家庭学習) ・意見文のテーマを選択し、自分立場を決める。	教科書の地図のテーマから自分の立場と、その根拠を考える学習課題を設定し、家庭学習で個別に対応させる。 〔学習時間の個別化〕
2	○根拠を考え吟味する。 ○学習したことや吟味した根拠を用いた意見文を書く。	・これまでの経験や資料を参考にしながら説得力のある根拠を考える。	
3	○学習したことや吟味した根拠を用いた意見文を書く。	・意見文の書き方を参考に根拠を示しながら意見文を書く。 ・書いた意見文を読み、示された根拠が説得力があるか吟味する。(家庭学習)	同じテーマの意見文を読み、示された根拠が説得力のあるものか吟味する学習課題を設定し、家庭学習で個別に対応させる。 意見文を読んで気づいた点はメモし、相手へ返させる。
4	○学習したことや吟味した根拠を用いた意見文を書く。	・根拠に数値や資料など客観的な事実を挙げられるようタブレットを使用して調べる。	〔学習時間の個別化〕
5 本時	○意見文を読み合い、根拠を吟味する。 ○異なる考えを参考にしながら、意見文の構成を工夫する。①	・意見文に自分の意見や根拠が示されているか確認する。 ・考え方や書き方など、意見文を読んで気づいたことを書き留める。	意見文を提出させ蓄積し、指導に生かす。 〔学習履歴の蓄積〕
6	○異なる考えを参考にしながら、意見文の構成を工夫する。②	・班で出た意見を参考に校正し直し、より説得力のある意見文を書く。	

4 本時の目標

異なる考えを参考にしながら、意見文の構成を工夫することができる。【思考・判断・表現】

5 本時の指導の着眼(個別最適な学びとの関連)

- (1) 意見文の読み合い、考えの共有を行う。  
意見文を読み合い考えを共有し、異なる考え方や構成を取り入れることで、自らの学びに生かしていく。
- (2) ポートフォリオを蓄積し、指導に生かす。  
書き直した意見文を提出させ、データとして蓄積する。
- (3) 自ら課題を選択する。  
意見文のテーマを4つ設定し、生徒が課題を選択して学習する。

## 6 学習過程の略案

段階	形態	学習活動	留意点
導入 5分	一斉	1 前時の学習内容の振り返りと本時の学習の流れを確認する。	1 意見文の書き方を再度確認させる。  ・贈り物をするなら食べ物か残るものか ・映画を観るなら映画館か家か ・国語の授業は漫画で授業して良いか ・住むなら田舎か都会か
	一斉	2 本時の目標を確認する。 異なる考えを参考に、意見文を再構成しよう。	2 学習プリントに記述させる。
展開 40分	個	3 自分の意見文を見直す。	3 書いた意見文の ①自分の意見があるか ②根拠があるか ③複数の根拠がある時は複数あることが分かるようになっているか ④反論があるか ⑤まとめがあるか ⑥～だ。～である。 という表現になっているか を確認する。 ここでは書き直しや書き加えはせずセルフチェックのみさせる。
	班	4 班で意見を共有する。 学習班になり、互いの意見をタブレットで見合う。	4 意見文の構成について意見を出し合う。 意見文に①～⑥が書かれていることを確認する。  不足していれば助言し、ノートやタブレットにメモさせる。  家庭学習で書いたメモを相手へ返させる。
	個	5 再構成する。 個人で意見文を見直す。	5 家庭学習と4の活動で得た意見を参考に、意見文を推敲し、仕上げさせる。 書き直したものをタブレットで再提出させる。
終了 5分	個	6 本時の学習の振り返りを書く。	6 本時の目標を振り返り、目標に対してできたこと・できなかったことを記述させる。
	一斉	7 次時の内容を確認する。	